



医療法人 光ヶ丘病院

医療法人 光ヶ丘病院理事長・院長 笠島 學

高岡市南部地区にある当院は38年前の昭和56年に開設しました。慢性期医療を主体に237床の5病棟で、寝たきりで認知症がある重症患者が入院しています。基幹病院、同一法人の老健、特養や介護施設、在宅からバランスよく受け入れており、13対1看護病棟の在院日数は17日で重症度は常に30%超です。医療療養の2病棟は在宅復帰加算を継続して確保し、医療区分3は7割ほどで、重症患者を抱えながら在宅復帰もしています。県内唯一の神経難病などを扱う特殊疾患病棟もあります。

10月から介護療養病棟は介護医療院となります。医療も介護も必要な方の終の棲家ですが、自立を支援し尊厳を重視して地域に開かれた施設になればと思っています。地域包括ケア病棟からの紹介も在宅扱いになり、特養からの依頼もでてくるでしょう。介護医療院が開設すれば200床以下の中小病院となるので、在宅療養支援病院になることや地域包括ケア「病床」の設置も視野に入ります。

常勤医師は8名で高齢化が進んでいますが、循環器・呼吸器・糖尿病・消化器・褥瘡や胃瘻・甲状腺・漢方・超音波と得意分野が分かれています。全員が総合診療医の資質を持つべきであり、3年前から稼働した電子カルテで情報の共有が容易になりました。非常勤医師によるもの忘れ外来や嚥下外来なども人気があります。認定看護師が5人もおり、定期的な感染症会議や認知症ラウンドを行なっています。介護職は殆ど介護福祉士を取得しており、共通の介護手順を作成中で、介護段位にも挑戦しており、質の高いケアを目指し、慢性期医療学会や全日病学会に複数題の発表をしています。

当法人の特徴は早くから在宅サービスを手掛けていることです。訪問看護は介護保険発足前から稼働（H9）し、通所リハビリ（H8）、訪問リハビリ（H18）は言語聴覚士も配置しています。病院内に18床のショートステイ専用棟があり、医療が必要な方には病棟で緊急も含めたショートステイを施行しています。リハビリスタッフも充実し、各疾患リハの最高ランクを取得しています。

認知症は以前から法人全体で取り組んでおり、認知症ケア専門士が23人います。認知症カフェで地域と関わっていましたが、今は市の委託で、年に10回「オレンジ倶楽部」を開催し、毎回40名ほどの参加があります。また、3年前から市の委託で「認知症初期集中支援チーム」が稼働し、認知症認定看護師、サポート医、社会福祉士、ケアマネージャー、作業療法士の多職種でチームを組み、120件超の困難事例に対処しており、地域包括やケアマネージャーの最後の砦として頼られています。

当院には、年間4千人の利用者がいる人間ドック・健診部門もあり、疾病の予防から、治療、介護まで切れ目のない「ケア」ができます。地域住民と一緒に健康を考え、住みやすい街づくりを築き上げていきたいものです。

